

生命環境農学科

募集予定

12人

わたしの
総合型選抜



菌類きのこ研究をリードする鳥大を目指して

「きのこから人間の健康が保てるような成分を見つけられないだろうか」。祖母が闘病する姿を見ているうち、そんな思いが芽生えた僕は、その分野で進学先を模索。菌類きのこの研究が盛んな鳥大を見つけたとき、「ここしかない!」と感じました。志望校を鳥大1本に絞り、まずは総合型選抜に挑戦することに。もし駄目でも、学校推薦Ⅰ・Ⅱ、一般入試の前期・後期と、全ての試験を受けるつもりでいました。

願書も2次選考の課題論文も、注意すべきポイントは「読み手に伝えたい自分の意見が、文章の最初から最後まで一貫していること」。まずは自分の意見の芯を決め、そこから逸れないよう注意して書き進めました。

自信を持ってアピールするため、2次対策はしっかりと

グループディスカッションは、相手の意見をしっかり聴く、それを受けとめた上で自分の考えを述べる、自分の意見を押し付けないことに留意して、毎日のように練習。本番では、「誰の目線から見た意見なのか」が発言者ごとに異なっていて、話がうまくかみ合わない場面が。それに気づき、うまく整理する発言ができたのは良かったです。

個人面接は和やかな雰囲気でした。願書に書いたことについて突っ込んだ質問もありましたが、積み重ねた練習どおり自分の思いをアピールできました。短い英文を読んで和訳する英語の問題に加え、生物の基礎的な知識も問われました。教科書を見てざっと復習しておけば問題なく答えられると思います。

3年

はこだ あきひろ

箱田 晃大さん (福岡工業大学附属城東高等学校 出身)

MY
FAVORITE
"TOTTORI"

大玉の大栄西瓜にかぶりつき!

鳥取県の農産物は美味しいものばかり。中でも感動したのが、北栄町産の「大栄西瓜(だいえいすいか)」。とっても甘くてみずみずしい! 実家にも1玉プレゼントしました。

全文は
Webで!



第2次選考

選抜のポイント、面接・論文等の出題例等

- 2023年度総合型選抜がどのように行われたかについて、学部・学科の募集単位別にポイントや出題例を示したものです。
- 2024年度総合型選抜が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

全体を通して
求める力

生命環境農学科では、自ら積極的に学び、傾聴力と協調性を持って学んだことを実践で応用できることを重視しています。高校時代に履修できる、あらゆる科目を積極的に学び、知力、体力、コミュニケーション力、気力、実践力の基礎を養ってください。

課題論文	「あなたの人生における『野望』は何ですか?それを達成するために、鳥取大学農学部で身につけたい能力とこれを磨くために重点的に取り組みたいことについて、1,000字程度で具体的に記述してください。」という課題について記述するものでした。
グループ ディスカッション	「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)は、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す開発目標です。達成までに残された時間はあと8年しかありません。混迷を極める世界情勢の中、優先して達成すべき目標を、皆さんのこれまでの経験や見聞を踏まえて議論し、理由とともに3つ選んでください。また、8年以内の達成に向けて、大学生として最も貢献できる目標を理由とともに1つ挙げてください。」というテーマについて、グループディスカッションを行いました。
個人面接	3名の面接官による、1人あたり25分の面接を行いました。また、基礎的な英語についても試問しました。

●選抜方法と求める能力の関連

選抜方法	思考力・判断力	表現力	主体性	協働性	農学の課題解決に対する意欲
2次(課題論文・面接)	○	○	◎		◎
2次(グループディスカッション)			○	◎	